

1 国語

目次

指導と評価の年間計画	1
1 評価についての考え方	”
2 「指導と評価の年間計画」の作成	2
3 「国語総合」における「指導と評価の年間計画」例	3
単元ごとの指導と評価の計画	4
1 評価規準の作成	”
(1) 評価規準の基本的な考え方	”
(2) 評価規準の作成について	”
2 「単元ごとの指導と評価の計画」の作成	5
(1) 「単元ごとの指導と評価の計画」作成の手引き	”
(2) 「単元ごとの指導と評価の計画」例	7
ア 国語総合「A 話すこと・聞くこと」の指導と評価の計画例	”
イ 国語総合「B 書くこと」の指導と評価の計画例	11
ウ 国語総合「C 読むこと」の指導と評価の計画例	14
評価の実際と評価から評定への総括	19
1 各授業時間における評価	”
2 単元における評価の総括	”
3 学期末における観点別評価の総括	20
4 学期末における評価から評定への換算	”
各様式	22
1 「指導と評価の年間計画」様式	”
2 「単元ごとの指導と評価の計画」様式	23
3 「学習指導案」様式	24

指導と評価の年間計画

1 評価についての考え方

学習指導における評価について、教育課程審議会答申(平成12年12月)では次のように示されている。

学習の評価は、教育がその目標に照らしてどのように行われ、児童生徒がその目標の実現に向けてどのように変容しているかを明らかにし、また、どのような点でつまずき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを明らかにしようとする、言わば教育改善の方法とも言うべきものである。

評価とは、学期末や年度末に行う学習の結果としての評定だけを指すものとしてとらえるのではなく、単元や各授業時間の中で、目標に照らしてその実現状況を判断し、次の指導に結びつくものとしてとらえなくてはならない。また、実際の学習指導において評価を行うときは、次の5点に留意する必要がある。

目標に準拠した評価を重視すること。

学習指導要領に示す目標を踏まえて単元や各授業時間の目標を立て、それに対する生徒の学習の実現状況を見る評価(いわゆる絶対評価)を重視する。

指導に生かす評価を充実させること(指導と評価の一体化)。

指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが大切である。例えば、机間指導やノート等の観察から一人一人の学習状況を把握し適切な助言を与えたり、クラス全体の学習状況に応じて指導の方法を改善したりすることである。

評価方法の工夫改善に努めること。

評価を客観的で妥当性のあるものとするためには、評価方法の工夫改善が必要である。具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等があり、その選択・組合わせを工夫する。

個人内評価を工夫すること。

生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価することは、重要なことであり、自ら学ぶ意欲や問題解決の能力、個性の伸長などに資するよう、個人内評価(生徒ごとのよい点や可能性、進歩の状況などの評価)を工夫することが大切である。

評価の信頼性を高めること。

目標に準拠した評価の下では、評価の信頼性を高めることが一層必要になる。そのためには、評価規準、評価方法について、実際の評価活動とその成果を踏まえ、絶えず見直しを行うことが求められる。また、評価の信頼性は、単に数値のデータだけに根拠を求めるのではなく、評価の目的に応じて、評価する人、評価される人、それを利用する人が、互いにおおむね妥当であると判断できることが重要である。そして、評価規準や評価方法等に関する情報が生徒や保護者に適切に提供され共通に理解されていることが大切である。

以上の点に留意し、教科内や担当者間でよく話し合い、協力体制を整えて評価を進め、授業の改善につなげていくことが大切である。

2 「指導と評価の年間計画」の作成

この年間指導計画は、1年間を通して段階的かつ系統的にどのような力を身に付けさせていくか、そしてその実現状況をどのような観点で評価していくかを明確にすることを目的に作成するものである。これまでは、教科書の教材を授業時間数に応じて順番に配列しただけの年間指導計画がみられたが、基礎・基本の確実な定着を図り、生徒が自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」をはぐくむためには、目標に準拠した評価を重視し、その客観性、妥当性、信頼性に十分配慮して、単元の目標と学習活動、評価規準と評価方法を明確にした計画を立てることが必要である。

「指導と評価の年間計画」は、内容的には「単元ごとの指導と評価の計画」の全単元について、その概要を記述したものである。

＜「指導と評価の年間計画」作成上の留意点＞

「生徒の実態と指導の重点」欄を設け、生徒の実態に即した年間計画とする。

単元の目標、評価の観点、評価の方法を明示し、身に付けさせる力を明確にして、計画的、系統的な指導と評価ができるようにする。

言語活動を明示し、具体的な言語活動を通じた学習活動が行われるようにする。

目標に応じて教材を設定するという観点で計画を立て、教材を授業時間に応じて配分しただけの年間計画とならないようにする。

国語総合については、「話すこと・聞くこと」を主とする指導に15単位時間程度、「書くこと」を主とする指導に30単位時間程度を配当するものと学習指導要領に示されているので、領域ごとに時間数を明示する。また、古典と近代以降の文章との授業の割合は、おおむね同等とすることを目安とし、古典における古文と漢文の割合は一方に偏らないようにする。

3 「国語総合」における「指導と評価の年間計画」例

科目	単位数(時間)	指導学年	使用教科書名	指導者名							
国語総合	4単位(140時間)	1学年									
科目の目標	国語を適切に表現し、確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。										
生徒の実態と指導の重点	就職して社会に出る生徒が多いこと、真面目だが自分を表現する力が不足する生徒が多いことを踏まえ、特に自分の考えを的確に表現する力、新聞のコラム等を読み理解できるような力を養うことに重点を置く。										
月	単 元 名	領域(時間)		主 な 単 元 の 目 標	評 価 の 観 点				主 な 評 価 方 法	言 語 活 動	教 材 は 備 考
		話す 聞く	書く 読む		関 心 意 欲 持 つ	話 す 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力			
4	随想を読む		4	・随想の内容を叙述に即して的確に読み取る。 ・文章の読み方を広げる。					授業の取組の観察 定期テスト		『真実の鏡』
	ショウアツテルで自己紹介小説を読む(1)	4	7	・目的や場に応じて、効果的に話す。 ・登場人物の心情などを表現し、読み味わう。 ・表現の特色をとらえる。					授業の取組の観察 ショウアツテル 感想文 定期テスト	A (ア) C (ア)	『羅生門』
5	手紙文を書く(近況報告)		4	・相手の目的に応じて、効果的に表現を自分の表現に優れさせる。 ・人物、心情などを表現に即して読み味わう。					授業の取組の観察 手紙文	B (イ)	近況報告の手紙例文
	古文入門		6古	・人物、心情などを表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりを理解する。					授業の取組の観察 定期テスト		『ちごのそら寝』
6	定期テスト 中世の随筆を読む		2古	・人物、心情などを表現に即して読み味わう、ものの見方、考え方を広げる。					授業の取組の観察 定期テスト		『徒然草』 『龜山殿の御池』ほか
	評論を読む(1)		5	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。 ・東西のものの見方の違いを東知り、考え方を広げる。					授業の取組の観察 ワークシート 定期テスト	C (ア)	『水の東西』
7	意見文を書く(1)		6	・論理的な構成を工夫し自分の考えを文章にまとめる。 ・様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方等を広げる。					授業の取組の観察 意見文 ブック 本の紹介文	B (ア) C (イ) B (ウ)	コンピュータの活用 ブックレット 図書館活用 グループによるブックレット
	近代の名詩を読む		6	・詩の情景、心情などを表現に即して読み味わう。					授業の取組の観察 鑑賞文	C (ア)	『レモン哀歌』 ほか
9	新聞を読んで考えたこと		4	・様々な問題について自分の考えを述べ、筋道を立てて述べる。					授業の取組の観察 発表	A (イ)	新聞
	定期テスト 歌物語を読む		29古	・人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・文語のきまりを理解する。					授業の取組の観察 感想文 定期テスト	C (ア)	『伊勢物語』 『芥川』ほか
10	評論を読む(2)		5	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。 ・文章の読み方を広げる。 ・文感を感じ方等を広げる。					授業の取組の観察 ワークシート 定期テスト	C (ウ)	『日本のゴミ』 『森は海の恋人』
	意見文を書く(2)		6	・情報を身に付け、整理する。 ・論理的な構成を工夫し自分の考えを文章にまとめる。 ・文章の読み方を広げる。 ・訓読のきまりを理解する。					授業の取組の観察 意見文	B (ア)	環境についての意見文 執筆 図書館活用
11	漢文入門		7漢	・文章の読み方を広げる。 ・訓読のきまりを理解する。					授業の取組の観察 定期テスト		『名言』
	論語の世界		6漢	・古典に表れた思想を読み取り、ものを広げる。					授業の取組の観察 感想文 定期テスト	C (ア)	『論語』
12	定期テスト ディベートを楽しもう		25	・考えを深めるために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。					授業の取組の観察 ディベート シート	A (ウ)	情報通信ネットワーク活用 (情報収集)
	小説を読む(2)		4	・情景、心情などを表現に即して読み味わう。					授業の取組の観察 定期テスト		『ナイン』
1	聞き書き(前半)		2	・目的に即して、効果的に話したり、的確に聞き取ったりする。					授業の取組の観察 聞き書きをまとめた文章	A (イ) B (ウ)	『あなたの青春時代は?』のテーマで親の世代へのインタビュー後、原稿執筆
	聞き書き(後半)		6	・目的に即して、効果的な表現を考えて書く。							
2	史伝を読む		6漢	・史伝の人物、心情を表現に即して読み味わう。					授業の取組の観察 定期テスト		『十八史略』 『鶏口午後』ほか
	軍記物語を読む		4古	・軍記物語の人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。					授業の取組の観察 音読チェック 定期テスト		『平家物語』 『木曾殿の真期』
3	言葉を見直す 調査して書く - 気になる言葉		3語説	・現代社会の言語生活の在り方についての言葉について、効果的な表現を考えて書く。					授業の取組の観察		『言葉の虫眼鏡』 図書館活用
	小説を読む(3)		6	・情景、心情などを表現に即して読み味わう。 ・表現の特色をとらえる。					授業の取組の観察 感想文 定期テスト	B (ウ) C (ア)	『伊豆の踊子』
	定期テスト		2								
		15	28	97	97の内訳=現45+古25+漢19+定期テスト8						

「言語活動」欄は、学習指導要領の言語活動例を活用し、その符号を記した。

単元ごとの指導と評価の計画

1 評価規準の作成

(1) 評価規準の基本的な考え方

評価規準は、学習指導要領に示す目標の実現状況を客観的に判断するためのよりどころとなるものである。観点別に設定し、生徒の身に付けた資質や能力の質的な面を評価することを目指す。評価規準は、「おおむね満足できると判断される」状況について設定し、それに照らして「十分満足できる」状況や、「努力を要する」状況を判断するのが適当である。

(2) 評価規準の作成について

評価規準の作成については、国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校) - 評価規準、評価方法の研究開発(報告) - 」(以下「評価のための参考資料」と略す)を参考にする。この資料は、平成16年3月に発表されている。(国立教育政策研究所のホームページにも掲載されている。http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryu/html/index_h.htm)これを参考に、各学校の実態を踏まえ適切に定めることが望ましい。

＜高等学校国語における評価の観点及びその趣旨＞

観点別学習状況の評価の観点は「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点を基本としているが、国語科では、新しい学習指導要領に示された目標、内容などを考慮し、次の5観点として設定している。

【評価の観点及びその趣旨】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

また、各科目における評価の観点は、下記のとおり「 」印が付いた観点である。

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語表現					
国語表現					
国語総合					
現代文					
古典					
古典講読					

2 「单元ごとの指導と評価の計画」の作成
 (1) 「单元ごとの指導と評価の計画」の作成の手引き

手順 1 各科目の目標と評価の観点及びその趣旨を確認する。

科目の目標 学習指導要領に示す該当科目の目標を確認する。

科目の評価の観点及びその趣旨 「評価のための参考資料」に示された内容を参考にする。

<例：国語総合>

【科目の目標】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

【評価の観点の趣旨】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合うとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

手順 2 内容のまとめりごとの評価規準を確認する。

内容のまとめり

学習指導要領に示す科目の内容を確認する。国語総合は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」をそれぞれ内容のまとめりとしているが、他の科目は、内容の全体を1つのまとめりとしている。

内容のまとめりごとの評価規準

「評価のための参考資料」に示された内容を参考にする。

<例：国語総合「A話すこと・聞くこと」>

【学習指導要領が示す「A話すこと・聞くこと」の内容】

- ア 様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。
・関連する〔言語事項〕を含む。

【内容のまとめりごとの評価規準】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
・課題を解決したり考えを深めたりするために、目的や場に応じて、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりしようとしている。	・様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べている。 ・目的や場に応じて効果的に話している。 ・目的や場に応じて的確に聞き取っている。 ・課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合っている。	・目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを理解している。 ・文や文章の組立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。

手順 3 単元の目標と評価規準を設定する。

単元の目標

その単元で、どの領域のどのような力を身に付けさせるかという目標を、生徒の実態を踏まえ、取り上げる教材の特性にも考慮して具体的に設定する。

ポイント 原則として1単元1領域の指導

1単元1領域の指導を原則とし、指導内容を焦点化し、単元の目標の数を絞り込む。
なお、〔言語事項〕は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの指導の中で深める。

単元の評価規準

手順1及び手続き2で確認したことを踏まえ、単元の目標に照らして、評価の観点ごとに評価規準を設定する。評価規準は、その実現状況が「おおむね満足できると判断される」生徒の姿として具体的に明文化する。「評価のための参考資料」に記載されている「内容のまとめりごとの評価規準の具体例」を参考に、各学校において生徒の実態に即して作成するとよい。

ポイント 原則として1単元には三つの観点の評価規準

1単元には、原則として「関心・意欲・態度」、「能力」、「知識・理解」の三つの観点についての評価規準を作成する。（「能力」は、その単元で指導の対象とする領域の能力）

例：国語総合「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」

- ・国語総合「A話すこと・聞くこと」の指導と評価の計画例（P7-10）
- ・国語総合「B書くこと」の指導と評価の計画例（P11-13）
- ・国語総合「C読むこと」の指導と評価の計画例（P14-18）

を参照してください。

手順 4 各授業時間ごとに目標、学習活動、評価規準、評価方法を設定する。

各授業時間の目標

単元の目標を踏まえ、本時の学習でどのような力を身に付けさせるかを具体的に明らかにした目標を設定する。目標は、抽象的な内容ではなく、実際の学習での具体的な生徒の姿として設定する。

学習活動

生徒が活発かつ適切に言語活動を行う授業を展開できるよう、学習指導要領に示された言語活動例を参考に学習活動を構想し、積極的な授業改善を実質的に図ることが肝要である。

各授業時間の評価規準

各授業時間の目標に照らして「おおむね満足できると判断できる」生徒姿として、学習活動に即して評価の観点ごとに具体的に設定する。

評価方法

授業中の行動や発表内容の観察、ワークシートやノートの記述内容の点検等、評価の観点に応じて適切な評価方法を設定する。

生徒による「自己評価」や「相互評価」は、生徒が自ら学ぶ意欲を見たり自己評価能力を高めたりする上で有効であるとともに、生徒から見た授業の評価にもつながり学習指導を改善していく手がかりにもなるが、あくまでも学習活動であり、教師が行う評価活動とは区別しておく必要がある。

例：国語総合「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」

- ・国語総合「A話すこと・聞くこと」の指導と評価の計画例（P7-10）
- ・国語総合「B書くこと」の指導と評価の計画例（P11-13）
- ・国語総合「C読むこと」の指導と評価の計画例（P14-18）

を参照してください。

(2) 「単元ごとの指導と評価の計画」例

ア 国語総合「A話すこと・聞くこと」の指導と評価の計画例

1 単元名

- ・知的プロセスを経験して、ディベートを楽しもう
 - 日本でもサマータイムを実施すべきである - (全5時間)

2 単元の目標

- ア 論題「日本でもサマータイムを実施すべきである」について、自分の立場の主張を明確にし、相手の主張を的確に聞き取って、考えを深めようとする。(関心・意欲・態度)
- イ 聞き手を説得できるよう、資料を分析して、自分側の立場に基づいた主張を述べる。
(話す・聞く能力)
- ウ ディベートという場に応じたわかりやすい話し方や言葉遣いを身に付ける。(知識・理解)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
設定された論題について、自分側の立場の主張を明確にするとともに、相手側の主張を的確に聞き取って、考えを深めようとしている。	聞き手を説得できるよう、資料を分析して、自分側の立場に基づいた主張を述べている。 筋道の通った効果的な発表メモを作成し、分かりやすく話している。 相手側の主張の展開を的確に聞き取り、自分側の論との関係をとらえている。	ディベートという場に応じた、相手側及び審判(聴衆)にわかりやすい話し方や言葉遣いを身に付けている。

4 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	主な学習活動	各時間の具体的評価規準	評価方法
1	アディベートの目的や方法を把握する。	ディベートのビデオを見て目的を明確にし、フローシートを書くことで、ディベートのルールや進め方を把握する。 *チーム決め	アの(1) ディベートのビデオを見て、主張の仕方や聞き取り方を理解しようとしている。【関】 アの(2) ディベートの内容を的確にフローシートに記入し、ディベートの方法が理解できる。【話】	観察 フローシート 自己評価
2	ア肯定側・否定側それぞれの立場を理解する。 イ論点を考えるとともに、資料収集の重要性を理解する。	論題についてリンクマップを書いて、双方の論点を整理する。 *肯定側・否定側立場決め 図書館で情報収集をし、論点を考える。 *プリント【宿題】 (新聞の記事) 論点を書き出す。 *1年次における	アリンクマップ上で思考を発展させようとする。【関】 イ自分側の主張を裏付ける資料を集めことができる。【話】	観察、ワークシート (ア・イとも)

		ディベートであることを考慮して基本資料は教師側で準備する。		
3	ウ自分の立場の主張を明確にする。	宿題とあらかじめ準備した資料等を使って情報を選定し、整理する。 *チーム役割決め	ウ自分側の主張を裏付けられるように、資料を整理することができる。 【話】	観察、ワークシート
4	ア筋道の通った主張をまとめる。	筋道の通った主張をまとめ、発表メモを作成する。 チームで話し合い、立論や反論・応答の準備をする。	アの(1) 筋道の通った立論が組み立てられる。 【話】 アの(2) 自分側の主張に基づいた立論をもとに、ディベートの各役割を理解して発表メモが作成できる。 【知】	観察、ワークシート (アの(1)(2)とも)
5	アお互いの主張を述べ、聞き取り、反論や質疑を行うことで、多面的な見方を経験し、理解を深める。	主張の要旨を明らかにして、筋道を立ててわかりやすく話す。 シートに記入しながら、互いの主張を的確に聞き取り、反論や応答を行う。 フローシートを書いて、双方の主張を的確に聞き取り、判定を行い、発表する。 発表者に対する相互評価を行った後、ディベートの学習について、自己評価を行う。	発表者 アの(1) 相手側の主張を的確に聞き取り、自分側の論を展開できる。【話】 審判 アの(2) フローシートに記入して双方の論を的確に聞き取り、自分のチームの論と照らし合わせて考察することができる。 【話】 アの(3) 論題について、授業以前の自分の考えとの比較をしようとしている。 【関】	観察、フローシート (アの(1)(2)とも) 自己評価

(注1) 具体的評価規準の欄の【 】内は、関連する「単元の評価規準」である。

(注2) 各時間の目標の符号と具体的評価規準の符号は対応させてある。

(参考) 観点別評価の進め方

ア 関心・意欲・態度

単元の評価規準	A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の[キーワード]とその具体的な姿の例 C「努力を要すると判断される」生徒へ指導の手だての例
設定された論題について、自分側の立場の主張を明確にするとともに、相手側の主張を的確に聞き取って、考えを深めようとしている。	A [的確な把握、積極的に考えを深める] 集中力をもつて、的確にディベートの内容を捉え、積極的に自分の考えを深めようとしている。 C 双方の主張を理解しようとしめない生徒に対しては、キーワードを示して、論点が理解しやすくなるようにする。

イ 話す・聞く能力

単元の評価規準	A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の[キーワード]とその具体的な姿の例 C「努力を要すると判断される」生徒へ指導の手だての例
聞き手を説得できるよう、資料を分析して、自分側の立場に基づいた主張を述べている。	A [情報選定・分析・自分側の主張] 自分側の立場に基づいて資料を選び、分析して、的確に論点を整理して、主張を構成しようとしている。 C 分析の方法が理解できない生徒には、資料の中のポイントとなる部分を示唆して、書き写させる。
筋道の通った効果的な発表メモを作成し、分かりやすく話している。	A [論理的な構成・明確な話し方] 筋道を立てて構成した、効果的な発表メモを作成し、大きな声で明確に聞き手に伝えようとしている。 C 構成の仕方がわからない生徒には、ワークシートに書かれた手順を説明して、実際に取り組めるようにする。
相手側の主張の展開を、的確に聞き取り、自分側の論との関係をとらえている。	A [的確な聞き取り・反論] フローシートを利用して、話し手の主張の展開を的確に聞き取り、論点を理解して、踏み込んだ質問反論ができる。 C 話し手の主張をフローシートに記録しようとしめない生徒には、該当する記入欄を示して、単語だけでも記入して考えられるよう助言する。

ウ 知識・理解

単元の評価規準	A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の[キーワード]とその具体的な姿の例 C「努力を要すると判断される」生徒へ指導の手だての例
ディベートという場に応じた、相手側及び審判(聴衆)にわかりやすい話し方や言葉遣いを身に付けている。	A [立場や論点の明確化] 話の最初に、自分の立場や論点を明示し、根拠を明確にして主張を述べることを身に付けている。 C ディベートの話し方を参考プリントで具体的に示し、それに従って発言原稿を書いてみるよう助言する。

5 学習指導案

教科・科目	国語総合	指導者		指導学級	1年組
授業日時	平成 年 月 日(曜日) 第 限			授業場所	教室
単元名	知的プロセスを経験して、ディベートを楽しもう - 論題「日本でもサマータイムを実施すべきである」 -				
単元の目標	ア 論題「日本でもサマータイムを実施すべきである」について、自分の立場の主張を明確にし、相手の主張を的確に聞き取って、考えを深めようとする。(関心・意欲・態度) イ 聞き手を説得できるよう、資料を分析して、自分側の立場に基づいた主張を述べる。(話す・聞く能力) ウ ディベートという場に応じたわかりやすい話し方や言葉遣いを身に付ける。(知識・理解)				
本時の目標 全5時間中第5時	・お互いの主張を述べ、聞き取り、反論や質疑を行うことで、多面的な見方を経験し、理解を深める。				
本時の内容	・主張の要旨を明らかにして、筋道を立ててわかりやすく話す。(肯定側・否定側発表者) ・シートに記入しながら、互いの主張を的確に聞き取り、反論や応答を行う。(同上) ・フローシートを書いて、双方の主張を的確に聞き取り、判定を行い、発表する。(審判) ・発表者に対する相互評価を行った後、ディベートの学習について、自己評価を行う。				

段階	時間	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入	3	本時の目標の確認 ディベート実施について確認と注意	フローシート記入の仕方を確実に理解する。	・各自の役割を再確認し、フローシート記入の重要性を理解させる。	
展開	40	ディベート実施 フォーマット 肯定側立論 3分 否定側立論 3分 作戦タイム 2分 否定側反対尋問 2分 肯定側反対尋問 2分 作戦タイム 2分 肯定側反論 2分 否定側反論 2分 作戦タイム 2分 否定側最終弁論 3分 肯定側最終弁論 3分 判定 教師から講評(4分)	・フローシートに記入 各自が発表・考察・判定 (発表チーム役割分担) 立論 反対尋問 反論 最終弁論 サポーター役 各1名 40人クラス・8チーム その他の6チームは、 審判役 ・最終弁論後、審判は感想コメント・判定記入(5分) 同時に、発表者は反省記入 ・審判の挙手によって判定。 判定理由の発表(5分)	・ディベートについて経験のない者も多いので、聞き手に伝えることを第1の目標とし、メモを利用して大きな声で明確に話せるようにする。 ・フローシート記入ができるように配慮して、タイムキーパー役を行わせる。 ・反対尋問・反論については、作戦タイムを有効に使わせる。前時までにとまとめた資料が有効に使えるように、サポーター役を機能させる。 ・判定の理由がわかりやすく述べられるよう配慮する。 ・反論の部分で有効だった点を指摘して、絡みのある有効な討論について理解させる。	発表者 相手側の主張を的確に聞き取り、自分側の論を展開できる。 (観察とフローシートによる) 審判 フローシートに記入して双方の論を的確に聞き取り、自分のチームの論と照らし合わせて考察することができる。 (観察とフローシートによる) 全体 論題について、授業以前の自分の考えとの比較をしようとしている。 (以上、自己評価による)
まとめ	7	自己評価を行う。 本論題について参考文献やサイトを紹介する	・「自己評価記入」 本論題についてとディベート学習について、言葉で記述する。	・自分の側のチームの論を検証し、意見をもつことのベースには価値観の存在があることを確認する。	

イ 国語総合「B書くこと」の指導と評価の計画例

1 単元名

- ・意見文を書く（全5時間）

2 単元の目標

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、伝えようとする意志をもって自分の考えをまとめようという態度を身に付ける。（関心・意欲・態度）
- イ 自分の表現に役立てるために、優れた表現の条件とその効果を考える。（書く能力）
- ウ 自分の意見を相手に納得させるために論理的な構成を工夫し、文章にまとめる。（書く能力）
- エ 優れた表現に接してその条件を考え、意見文を書くのに必要な文章展開の条件や型を理解する。（知識・理解）

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
論理的な文章を書くための条件を考え効果的な表現をしようとしている。 相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめようとしている。	書くことに役立てるために、優れた表現に接してその条件や効果を考えられている。 主張を明確にし、論理的な構成となるよう配列を考え、適切な語句を選ぶなど、表現に工夫を凝らしたり推敲を重ねたりして自分の考えを文章にまとめている。	文や文章の組み立てを整理し、論理的な文章を書くための条件や論理的な展開の仕方を理解している。

4 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	主な学習活動	各時間の具体的評価規準	評価方法
1	ア優れた意見文について、その条件と効果を明らかにする。	教科書に掲載された意見文を読み、その文章の優れた点と、その表現がもたらす効果についてワークシートの項目にしたがい自分の考えをもつ。 グループで話し合い、優れた文章表現のための条件とその効果を整理する。	アの(1)掲載された意見文の優れている点を考えようとしている。 【関】 アの(2)優れた表現の条件と効果をワークシートを活用して考えている。 【書】 アの(3)論理的な文章を書くための条件や展開の型について理解している。 【知】	・観察（机間指導、発表） ・点検（ワークシートの記述）
2	ア身近な生活の中から投稿原稿を書くための題材を見付ける。 イ自分の意見とその論拠を整理し構成を考える。	自分の身近な生活の中で問題意識をもっていることの中から題材を見付け、自分の意見をもつ。 ワークシートを利用し、プレゼンティングにより論拠を挙げ、それをもとに構成を考える。	アの(1)投稿するための題材を選ぼうとしている。 【関】 アの(2)自分の生活を振り返り、投稿により他者に主張したい題材を見付けている。 【書】	・観察（机間指導） ・点検（ワークシートの記述）

			イ選んだ題材について、自分の意見を持ち、その論拠を挙げ、構成を考えている。【書】	
3	ア文章展開の仕方を工夫して自分の投稿原稿を書く。	前時に学習したことを手がかりにして、自分の投稿原稿を書く。	アの(1)自分の考えを文章にまとめようとしている。【関】 アの(2)前時まで学習したことを手がかりにして、意見文を書いている。【書】	・観察（机間指導） ・点検（原稿の記述）
4	ア教育用コンテンツを利用し、推敲の仕方を明らかにする。 イ自分の原稿を推敲する。	教育用コンテンツ「意見文を書こう」を活用し、推敲の演習を行う。 自分自身の投稿原稿を推敲する。	ア教育用コンテンツを活用し、推敲の仕方を身に付けている。【書】 イ自分の投稿原稿について、表現を工夫したり文の配列を入れ替えたりして推敲している。【書】	・観察（机間指導） ・点検（原稿の記述）
5	ア相互評価の結果を推敲に生かし、説得力のある投稿原稿にまとめる。	仲間の原稿を読み合い、評価表をもとに相互評価する。 仲間からの評価を参考にし、自分の投稿原稿を完成させる。	アの(1)相互評価を参考にし、効果的な表現をしようとしている。【関】 アの(2)相互評価を元に推敲を重ね、文章をまとめている。【書】	・観察（机間指導、発表） ・点検（ワークの記述）

（注1）具体的評価規準の欄の【 】内は、関連する「単元の評価規準」である。

（注2）各時間の目標の符号と具体的評価規準の符号は対応させてある。

5 学習指導案

日時	平成 年 月 日(月) 第 限	指導クラス	1年 組(男20名、女20名)	指導者	
科目	国語総合	単元名	意見文を書く	教科書名	出版「国語総合」
本時の位置	第4時(全5時間中)				
本時の学習目標	<p>ア 教育用コンテンツ「意見文を書こう」を利用して推敲の演習を行い、推敲の意義と推敲の仕方を理解する。(書く能力)</p> <p>イ 自分の投稿原稿について、表現を工夫したり構成を考えたりして、より効果的に自分の考えが伝わるように推敲する。(書く能力)</p>				
クラス観	(省略)				
	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価		
導入 10分	<p>本時の目標を明らかにする。</p> <p>「推敲」の意義を理解する。</p>	<p>本時の学習課題をもつ。</p> <p>「推敲」の言葉の意味の理解や著名な作家の推敲例から推敲の意義を理解する。</p>	<p>学習用パソコン及びプロジェクターを準備しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時は、教育用コンテンツを利用して推敲の意義を理解するとともに、自分の投稿原稿を推敲することを告げる。 「推敲」という言葉の説明を行ったり、著名な作家の原稿に残る推敲例を紹介したりして、推敲の意義を十分に理解させる。 		
開 35分	<p>〔課題1〕教育用コンテンツ「意見文を書こう」を利用し、推敲の意義と推敲の仕方を理解する。</p> <p>教育用コンテンツを利用し演習を行う。</p>	<p>1グループ(3名)1台のパソコンを利用し、推敲の演習を行う。</p> <p>正誤の判定に基づいて、それぞれその理由を話し合いにより明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターにより、コンテンツの利用の仕方を説明する。 グループで話し合いながら行い、どのように推敲するのかを考えるよう指示する。 <p>目標アに対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕教育用コンテンツを活用し、推敲の意義と推敲の仕方を身に付けている。 〔方法〕観察(机間指導) 〔状況Cの生徒への手だて〕 なぜ直さなければいけないかを、別の表現と比較してその必要性を考えさせる。</p>		
	<p>〔課題2〕自分の投稿原稿について、より効果的に自分の考えが伝わるように推敲する。</p> <p>自分自身の投稿原稿を推敲する。</p>	<p>自分の投稿原稿について、表現を工夫したり、文の配列を入れ替えたりして推敲する。</p>	<p>目標イに対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕自分の投稿原稿について、表現を工夫したり、文の配列を入れ替えたりして推敲している。 〔方法〕観察(机間指導と原稿への記述) 〔状況Cの生徒への手だて〕 推敲すべき箇所を1, 2箇所指摘して説明し、次の箇所について考えさせる。</p>		
まとめ 5分	<p>本時の学習のまとめを行う。</p>	<p>改めて全体を通して読み直し、自分の推敲した過程を確認する。教師の説明を聞き、推敲の重要性を理解し、本時の学習の意義を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習が、表現活動全体の中でどのような意義があるかを確認させ、推敲の重要性について理解をうながす。 次時は、相互評価によりさらに推敲を重ね、原稿を完成させることを告げる。 		

ウ 国語総合「C読むこと」の指導と評価の計画例

1 単元名

・小説を読む - 『羅生門』 - (全7時間)

2 単元の目標

ア 登場人物の考え方や心情を表現に即して読み味わい、話し合いによって自分の考えを深めようとする。(関心・意欲・態度)

イ 小説全体の構成を的確にとらえるとともに、主人公など登場人物の人物像や心理の変化を、表現に即して読み味わう。(読む能力)

ウ 小説が描こうとしたことについての自分の考え方を深める。(読む能力)

エ 常用漢字に対する理解を深め、語彙を豊かにするとともに、表現の工夫について理解する。

(知識・理解)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
表現に即して、登場人物の人間像や心情を読み味わおうとしている。 他の生徒との読みの交流を通して、自分の読みを深めようとしている。	『羅生門』の構成を的確に読み取っている。 『羅生門』の情景や、主人公など登場人物の人物像や心理を、それぞれの場面の表現に即して読み味わっている。 『羅生門』の描こうとしたことについて、他の生徒との意見交流などを手がかりに、自分の考えを深めている。	文中の語句の意味を理解し、語彙を豊かにしている。 文中の常用漢字の読みに慣れ、主なものは書ける。 比喩などの効果的な表現の工夫について理解している。

4 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	主な学習活動	各時間の具体的評価規準	評価方法
1	ア小説『羅生門』を興味をもって読もうとする。 イ『羅生門』全体の構成を読み取る。	教師の範読を聞きながら『羅生門』を黙読する。 この小説の主題についての自分の考えと一口感想を書き、交流・発表を行う。 場面の变化を観点に『羅生門』を段落分けし、相互交流・発表を行う。 (次時の学習範囲をすらすら読めるようにしてこることと、難解語句の意味調べを各時の学習課題とする。)	ア『羅生門』の描こうとしていることや主人公の人物像などについて、自分なりの感想を持つとうとしている。【関】 イ場面の変化を観点に、『羅生門』を3段落か4段落に分けることができる。【読】	・観察(机間指導、発表) ・授業後の感想確認。 ・観察(机間指導、発表)
2	ア『羅生門』の背景となる社会情	第一段落後半を全員個々に音読する。	ア第一段落前半の説明・描写から、平安末期の	・観察(机間指導、発表)

	<p>勢・場所の状況を的確に読み取る。</p> <p>イ主人公下人の人物像、置かれていた状況を的確に読み取る。</p> <p>ウ第一段落前半の語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。</p>	<p>難解語句の意味の発表を聞き、確認する。</p> <p>第一段落前半で、当時の社会情勢・羅生門の状況などにかかわる描写や説明部分に傍線を引き、要点をまとめ、交流・発表を行う。</p> <p>第一段落前半で、下人の人物像・置かれていた状況にかかわる説明・描写に傍線を引き、要点をまとめ、交流・発表を行う。</p>	<p>都の衰微ぶりと、羅生門の荒廃・不気味さを、(ア・イとも)要点として指摘できる。</p> <p>【読】</p> <p>イ第一段落前半の説明・描写から、主人公の年齢・身分、追い込まれた状況を、要点として指摘できる。【読】</p> <p>ウ第一段落前半の難解語句の適切な意味を説明できる。【知】</p>	<p>表)</p> <p>(ア・イとも)</p> <p>・ノートの確認、観察(発表)</p>
3	<p>ア楼の下における下人の心理を読み取る。</p> <p>イ第一段落後半の語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。</p>	<p>第一段落後半を全員個々に音読する。</p> <p>難解語句の意味の発表を聞き、確認する。</p> <p>楼の下における下人の心理を、論理の流れに従って箇条書きにしてまとめ、交流・発表を行う。</p> <p>下人がこの状況を深刻に受け止めていたか否か考え、交流・発表を行う。</p>	<p>アの(1) 下人の考えが問題解決を延期した段階でとどまっていたことが指摘できる。【読】</p> <p>アの(2) 下人が自分の状況を本当に深刻には受け止めてはいなかったことが指摘できる。</p> <p>【読】</p> <p>イ第一段落後半の難解語句の適切な意味を説明できる。【知】</p>	<p>・観察(机間指導、発表)</p> <p>・ノートの確認、観察(発表)</p>
4	<p>アはしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る。</p> <p>イ第二段落の語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。</p>	<p>第二段落を全員個々に音読する。</p> <p>難解な語句の意味を確認する。</p> <p>はしご上での下人の心理の変化とそのきっかけをまとめ、交流・発表を行う。</p> <p>下人の正義感(悪を憎む心)の特徴を考え、発表する。</p>	<p>アの(1) はしご上での下人の心理変化とそのきっかけを整理し、順にまとめることができる。</p> <p>【読】</p> <p>アの(1) 下人の正義感(悪を憎む心)が一貫性のない非合理的なものであることを指摘できる。</p> <p>【読】</p> <p>イ第二段落の難解語句の適切な意味を説明できる。【知】</p>	<p>・観察(机間指導、発表)</p> <p>・ノートの確認、観察(発表)</p>
5	<p>ア楼の上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る。</p> <p>イ第三段落の語句の意味を理解</p>	<p>第三段落を全員個々に音読する。</p> <p>難解な語句の意味を確認する。</p> <p>楼の上で生まれた下人の心理変化とそのきっかけ</p>	<p>アの(1) 楼の上で生まれた下人の心理変化とそのきっかけを整理し、順にまとめることができる。</p> <p>アの(2) 下人の心の動き</p>	<p>・観察(机間指導、発表)</p>

	し、語彙を豊かにする。	をまとめ、交流・発表を行う。 下人が老婆の答えに失望した理由から、下人の心理の特徴を考え、発表する。	が一貫性のない気分的（非合理的）なものであることを指摘できる。 【読】 イ第三段落の難解語句の適切な意味を説明できる。 【知】	・ノートの確認、観察(発表)
--	-------------	---	--	----------------

6	ア下人の心に悪に対する勇気を生まれさせた老婆の理屈を読み取る。 イこの小説の結びの表現効果を理解する。 ウ老婆に対する描写の特徴を理解する。	老婆が、自分の行為を正当化する理屈を述べた部分を、指名読みに従って黙読する。 老婆の話のどのような理屈が、下人の心に悪に対する勇気を生まれさせたのか考えをまとめ、交流・発表する。 この小説の結びの表現を初出の表現と比較して、その効果について考え、発表する。 老婆を描写した部分を抜き出し、その特徴を考えて発表する。 (『羅生門』の描こうとしたことについての自分の考えを40字以内でまとめることを課題とする。)	ア下人の心に悪に対する勇気を生まれさせたものが、「生きるために仕方がなくしたことは、悪いこととは思わない」という老婆の理屈であることが指摘できる。 【読】 イこの小説の結びの表現が、初出の表現と比べると余韻があることが指摘できる。【知】 ウ老婆に対する描写に、醜さを印象づけるような動物の比喩が使われていることが指摘できる。【知】	・観察(机間指導、発表) (ア・イ・ウとも)
---	--	--	--	---------------------------

準備	『羅生門』の描こうとしたことについての生徒の意見を整理・分類し、話し合いの資料プリントを作成する。また、多かった意見の代表者(3人ほど)を決め、あらかじめその意見とその根拠を話せるように準備しておくことを指示する。7時間目の前に、代表者の席を前に設定する。(パネルディスカッションに似た形式)			
----	--	--	--	--

7	ア他の生徒との読みの交流を通して、『羅生門』についての自分の読みを深める。	話し合いの手順と目的を聞き、課題をまとめたプリントを読む。 『羅生門』の描こうとしたことについての代表者の意見を聞く。 代表者の質疑応答を聞く。 フロアの生徒から意見・質問等を述べ、その後隣同士で話し合う。 教師の紹介する研究者等の考えを聞く。	アの(1) 他の生徒と読みの交流を積極的に行おうとし、自分の読みを深めようとしている。 【関】 アの(2) 『羅生門』の描こうとしたことについて、他の生徒との意見交流などを手がかりに、自分の考えを深めている。 【読】	・観察(机間指導、発表) ・授業後の第6時と第7時の課題の確認。
---	---------------------------------------	--	---	-------------------------------------

	『羅生門』の描こうとしたことなどを入れて、学習の感想をまとめる。(300字～400字) 時間中に書けない場合は課題。	
--	--	--

(注1) 具体的評価規準の欄の【 】内は、関連する「単元の評価規準」である。

(注2) 各時間の目標の符号と具体的評価規準の符号は対応させてある。

(注3) 単元の目標アについては、各時間の目標に「関心・意欲・態度」にかかわるものが記されていないなくても、随時観察による評価などを行う。

(注4) 単元の目標エのうちの常用漢字の指導などは、生徒の音読時やその後などに随時行う。

(注5) 「読む能力」「知識・理解」については、定期テストによる評価も行う。

5 学習指導案

日時	平成 年 月 日(月) 第 限	指導クラス	1年 組(男20名、女20名)	指導者	
科目	国語総合	単元名	小説を読む - 『羅生門』 -	教科書名	出版「国語総合」
本時の位置	第4時(全7時間中)				
本時の学習目標	ア はしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る。(読む能力) イ 第二段落の語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。(知識・理解)				
クラス観	(省略)				
	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価		
導入 7分	第二段落の音読 本時の学習目標の確認	句読点に注意し、すらすら読めるようになることを目標に、立って第二段落を音読する。 本時の学習目標が「はしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る」ことにあることを理解する。	すらすら音読できることを内容理解の前提とする。起立しての音読で始めることは、授業への切り替えをスムーズにする意図もある。音読時の机間指導により、漢字の読みやアクセントの確認を行う。重要なことは、音読終了後、全員に説明する。		
展 開 40分	難解語句の意味の理解 はしご上での下人の心理の理解	難解語句の意味を理解する。	隣同士の確認により、意味調べの課題チェックをさせる。 目標イに対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕難解語句(「息を殺す」「たかをくくる」など)の適切な意味を説明できる。 〔方法〕観察(発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕 下人の心理と結び付いた語句について、どのような心理が表れているを授業の中で考えていき、理解を深めるよう助言する。		
	下人の正義感(悪を憎む心)の特徴の理解	はしご上で生まれた下人の心理変化とそのきっかけをノートにまとめる。 指名発表された意見について交流し、理解を深める。	目標アに対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕下人の心理変化を、楼上の光に気付いたとき、老婆を見たとき、老婆が髪の毛を抜き始めたときの順に整理し、まとめることができる。 〔方法〕観察(机間指導、発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕 語り手による下人の心理の説明だけではなく、下人の様子や態度にも注目し、そこから読み取れる心理について考えるよう助言する。 下人の心から恐怖が消えた理由などを確認しつつ、それぞれの心理変化に対する理解を深めさせる。 目標アに対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕下人の「悪を憎む心」が非合理的で一貫性のないものであることを、語り手の言葉を手がかりに指摘できる。 〔方法〕観察(発表) 〔状況Cの生徒への手だて〕 門の下で下人が考えていたことと比較して考えるよう助言する。		
まとめ 3分	本時の学習のまとめと次時の予告	本時の授業のポイント(はしご上での下人の心理の変化とその特徴を読み取る)を理解する。 次時は、楼の上での下人の心理の変化とその特徴を読み取ることを予告する。			

評価の実際と評価から評定への総括

1 各授業時間における評価

各授業時間において、評価の観点別に評価規準に基づいて生徒一人一人に対する評価を行う。評価の在り方について「評価のための参考資料」に次のように示されている。評価した結果は、記録簿に各授業ごとの記録欄を設け、記録しておくことが大切である。

設定した評価規準に照らして、まず「おおむね満足できると判断される」状況（B）か、「努力を要すると判断される」状況（C）かを決定した上で、さらに、「おおむね満足できると判断される」状況（B）と評価されるもののうち、学習の実現の状況について質的な高まりや深まりをもっていると評価されるものを「十分満足できると判断される」状況（A）と評価することが適切であると考ええる。

毎時間全員を観察し評価するのは難しいが、単元の中で継続的に観察し、単元ごとに全員の評価が出るように考えたい。また、ワークシートや作品などによる評価も組み合わせ、客観的で妥当性のある評価をするようにする。

一人一人の生徒に基礎・基本の確実な定着を図るという観点から、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だては、その時間でなすべきこと、単元中でなすべきこと、単元を超えてなすべきことの視点を持ち、意図的、継続的に指導を行うことが大切である。

2 単元における評価の総括

評価から評定へ総括する方法としては、観点別評価を単元ごとに総括した上で学期末・学年末に総括する方法や、観点別評価を学期末、学年末にまとめて総括する方法などが考えられる。ここでは、前者の方法を例として解説している。（あくまでも一例であり、学校の実態に応じて工夫したい。）なお、この資料には他教科の例も示されているので、参考にするとよい。

まず、各単元では、評価規準を踏まえて、各授業時間の評価を行い、その積み重ねで単元としての評価を総括する。単元ごとの評価表について「評価のための資料」に次のように示されているので、これを参考に総括の仕方について、各学校で検討するとよい。

評価表例について

次に掲げた評価表例は各生徒が単元の目標に照らして「おおむね満足できると判断される」状況（B）になったと評価される時点で、各観点の評価規準の左側のB欄に 印を記入するように作成してある。さらに、質的な高まりや深まりが見られて「十分満足できると判断される」状況（A）と評価した場合には、右側のA欄に 印を記入する。各観点の評価の欄には、本単元における観点ごとの評価を総括したものを記入する。また、特記すべき事項の欄は、指導者が特に気付いた点などをメモする際に用いる。なお、2時間にわたって同一の評価規準で評価する際には、1時間目の評価はチェック程度にとどめ、2時間目の実現状況を見てから 印を記入するようにする。

総括の具体的な方法について

単元における総括においては、原則として、A、B、Cの数の過半数でその評価を決めることになる。例えばある観点で4つの評価規準がある場合、「A、A、A、B」であれば「A」となり、「A、B、A、B」であれば「B」となる。また「A、C、B、C」の場合は「A、C」を「B、B」と読みかえる操作を行い「B」と評価する。なお、重み付けをする場合には、その重みに応じて評価することになる。例えば「A、B、A、B」であっても、3つ目の評価規準が2倍の重みであれば、ここでの評価は「A」となる。

【評価表例】

番号	氏名	関心・意欲・態度			話す・聞く能力						知識・理解			特記	
		評価規準			評価規準						評価規準				
		目的や場に応じて、表現を工夫して自分の考えを話そうとしている。			情報を整理して自分の考えをもっている。		自分の意見を筋道立て述べている 2倍の重み		発表者の意見を的確に聞いている。		声の大きさ、言葉遣いなど発表の方法について理解している。				
	B	A	評価	B	A	B	A	B	A	評価	B	A	評価		
1	山一子			B							B			A	
2	上次男			A							A			B	
3	田三美			B							C			B	
40	辺四郎			B							B			B	

3 学期末における観点別評価の総括

- (1) 記録簿に、観点別に記録ページを設け、単元ごとに評価を記入する。
- (2) 評価の「A」、「B」、「C」を点数に換算し合計する。また、重点を置いた単元がある場合は、その単元の評価に重み付けをすることも考えられる。

【「読む能力」の評価の総括表例】

番号	氏名	読む能力										前期 総括				
		真実の鏡		羅生門		古文入門		中世の随筆		評論(1)			私たちの読んだ本		名詩	
		観	察	観	察	観	察	観	察	観	察		本	の	観	鑑
1	山一子	A	A	B	A	A	A	B	B	A	B	A	B	4	2	
2	上次男	B	B	B	B	A	A	B	B	A	B	A	B	3	6	
3	田三美	B	B	C	B	A	B	B	C	B	C	B	C	2	6	

この例では、A = 5、B = 3、C = 1とし、50点満点としている。

4 学期末における評価から評定への換算

- (1) 各観点の評価の比率を、授業時間数や指導の重点の置き方などを手がかりに設定する。
- (2) 合計点数を設定し、比率に応じて各観点に按分する。
- (3) 各観点別に総括した点数を各観点の満点の点数によって換算する。
- (4) 合計点数から、10段階(5段階)に換算して評定を出す。

【「前期末」評価の総括表例】

番号	氏名	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	中間テスト	期末テスト	合計	評定
		満点	満点	満点	満点	満点	満点	満点	満点	10段階
1	山一子	95	65	111	168	36	172	165	812	9
2	上次男	82	68	125	144	30	135	143	727	8
3	田三美	60	90	55	104	20	70	98	497	5

この例では、各観点ごとの比率を下記のとおり設定した。また、定期テストは「読む能力」と「知識・理解」について作問し、得点比率を80%対20%として各観点ごとの比率に加えている。

関心・意欲・態度10%、話す・聞く能力10%、書く能力16%、読む能力52%、知識・理解12%

この例では、次のように10段階に換算して評定を出すと想定している。

901～1000 = 10 801～900 = 9 701～800 = 8……（以下略）

評定を算出した段階で、生徒の実態をきちんと反映した評価であるかどうかを、確認することを大切にしたい。特にコンピュータを使って成績を処理する場合には、1人1人の実態を思い浮かべず、機械的に評価してしまった、ということがないようにしたい。

各様式

1 「指導と評価の年間計画」様式

科目		単位数(時間) 単位(時間)		指導学年 学年	使用教科書名	指導者名								
科目の目標														
生徒の実態と指導の重点														
月	単元名	領域(時間)			主な単元の目標	評価の観点					主な評価方法	言語活動	教材	
		話す 聞く	書く	読む		関心 意欲 態度	話す 聞く 能力	書く 能力	読む 能力	知識 理解				
4					・									
					・									
5					・									
					・									
6	定期テスト				・									
					・									
7					・									
					・									
9					・									
					・									
10	定期テスト				・									
					・									
11					・									
					・									
12	定期テスト				・									
					・									
1					・									
					・									
2					・									
					・									
3					・									
					・									
定期テスト														
総時間数														

2 「単元ごとの指導と評価の計画」様式

1 単元名

・ (全 時間)

2 対象学年と生徒の実態

- ・対 象 年生
- ・生徒の学力実態

3 単元の目標

ア (関心・意欲・態度)

イ (能力)

ウ (知識・理解)

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	能力	知識・理解

5 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	主な学習活動	各時間の具体的評価規準	評価方法
1	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・
2	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・
3	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・
4	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・
5	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・
6	ア イ		ア 【 】 イ 【 】	・ ・

3 「学習指導案」様式

日時	平成 年 月 日() 第 限	指導クラス	年 組(男 名、女 名)	指導者	
科目		単元名		教科書名	出版「 」
本時の位置	第 時(全 時間中)				
本時の学習目標	ア イ				
クラス観					
	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価		
導 入 分					
展 開 分			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標 に対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕 〔方法〕 〔状況Cの生徒への手だて〕 </div>		
			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標 に対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕 〔方法〕 〔状況Cの生徒への手だて〕 </div>		
			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標 に対する具体的評価規準と評価方法 〔規準〕 〔方法〕 〔状況Cの生徒への手だて〕 </div>		
ま と め 分					